

バラ切り花の湿式輸送におけるバケット内溶液 低温期、高温期ともGLCA液が有効

1. はじめに

近年、切り花の花持ちが重視されるようになり、湿式輸送が急速に普及しています。ここでは、バラのバケット内溶液の種類と輸送シミュレーション後の花持ちについての試験結果を紹介します。

2. 試験方法

試験は、2003年11月と2004年9月に実施しました。試験には暖地園芸センター内で収穫した「ローテローゼ」の切り花を用いました。バケット内溶液には、「クリザールバケット」ほか市販の品質保持剤7剤と独立行政法人花き研究所で開発された「GLCA液」および50mg/L硫酸アルミニウム溶液を供試し、水道水を対照としました。切り花は収穫後直ちに長さ60cmに調整し、300mg/L硫酸アルミニウム溶液に生けて2℃の冷蔵庫内で24時間予冷しました。その後、規定の濃度に調製したバ

ケット内溶液に生け替えて室温（11月、20±2℃、9月、24±2℃）6時間→10℃6時間→室温12時間の輸送シミュレーションを行いました。処理後の花持ち調査は、切り花を水道水に生け、室温20℃、蛍光灯下500Lux、24時間照明下で行いました。

3. 結果

いずれの処理においても切り花の薬害の発生は認められませんでした。花持ち日数は、2003年11月と2004年9月とも「GLCA液」が最も長く、水道水より花持ち日数が長かった剤は、2003年11月は「GLCA液」のみ、2004年9月は5剤でした（図1, 2）。2003年11月試験の花持ち試験終了時の開花ステージは、「クリザールクリアプロフェッショナル」が五分咲きにあたる5.0で他の処理剤に比べて開花が遅くなりました。以上の結果、バラ切り花の湿式輸送におけるバケット内溶液に

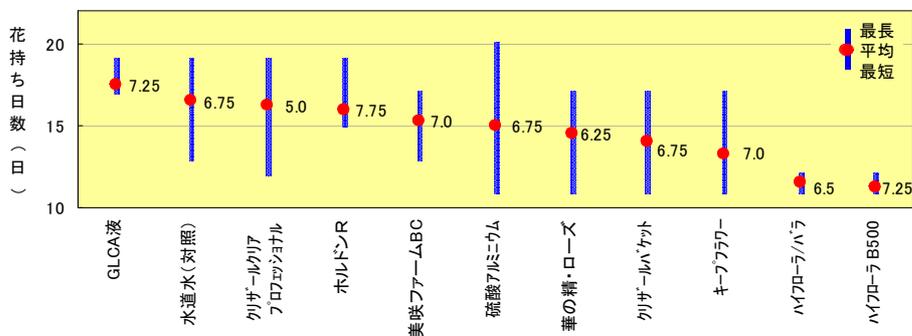


図1 バラ切り花の湿式輸送におけるバケット内液と花持ち日数(2003年11月)

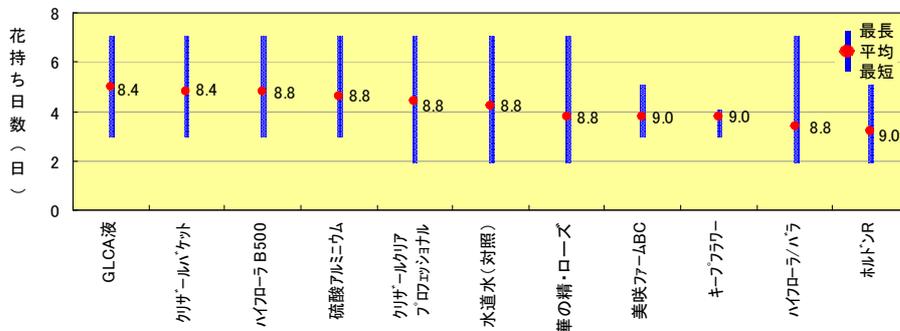


図2 バラ切り花の湿式輸送におけるバケット内液と花持ち日数(2004年9月)

花持ち日数は、花持ち調査開始日から露芯またはベントネック発生までの日数。グラフ内の数値は、花持ち試験終了時の開花ステージの平均値。開花ステージの指標は、兵庫県立農林水産技術総合センターの指標（宇田ら）による。

は、「GLCA液」が有効であると思われました。

4. おわりに

バラは、切り花の中でも低温湿式輸送による花持ち向上効果が顕著な品目です。県産バラ切り花の花持ち向上による有利な販売を行うため、輸送条件と品質保持剤の効果的な処理法をより明らかにしていきたいと考えます。

(園芸部 伊藤吉成)